



# ウェアラブルなヒト飛行技術

Wearable Aviation Technology

エアモビリティ/ロボティクス/救急医療・洋上風力発電

Key word: Air-mobility / Robotics / Emergency medical service · Offshore wind

## 研究開発の概要

電力インフラへのアクセス効率化や災害時の早期復旧のため、従来のドローンやヘリコプターとは強みの異なる「ウェアラブルなヒト飛行技術」という新たなエアモビリティ技術の開発を推進しました。

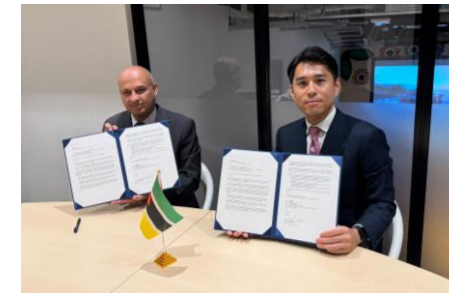
- 人の姿勢と連動する「世界唯一の飛行装置」を構築・実現した。
- 想定分野のみならず、救急医療・災害対応分野で海外政府連携を実現し、市場の広がりを確認できた。



## 社会実装のイメージ



<救急医療・災害対応のユースケース>



<モザンビーク政府とのLOI調印式>

- ①救急医療・災害対応：緊急時のレスポンスタイム（現場到着までの時間）を短縮し、人命救助に貢献。
- ②風力発電（主に洋上）：O&M業務における風車アクセスおよび点検・補修作業の高度化に貢献。

emb|em株式会社 / 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）



# ウェアラブルなヒト飛行技術

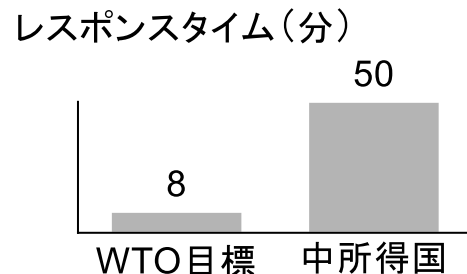
Wearable Aviation Technology

エアモビリティ/ロボティクス/救急医療・洋上風力発電

Key word: Air-mobility / Robotics / Emergency medical service · Offshore wind

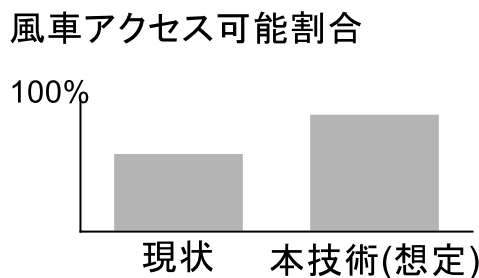
## 背景・課題及び解決アプローチ（救急医療・災害対応）

緊急時のレスポンスタイムを短縮し、人命救助に貢献。特にインフラが脆弱な中低所得国や、サイクロン・地震・洪水などの災害が頻発する国・地域では高いニーズ。



## 背景・課題及び解決アプローチ（風力発電、特に洋上）

O&M業務における風車アクセスおよび点検・補修作業の高度化。特に、海象条件に左右される風車アクセスを実現することに対して高いニーズ。



## 今後の展望

2030年代(前半)を目途に、特定のユースケースにおける初期導入を目指す。これに向けて、2020年代後半では、想定ユーザーと連携した形で、実際のユースケースを想定したPoCプロジェクトを実施し、信頼性・費用対効果を高める。

## 希望するマッチング先

- ・ 救急医療・災害対応の高度化に取り組む企業
- ・ 洋上インフラへのアクセス課題に取り組む企業
- ・ ドローンやロボティクス分野における協業可能性がある企業・組織（大学・研究機関など）

emb|em株式会社 / 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）